

TI、DLP® ピコ・プロジェクタの製品化実現に向けて大きく前進

参考資料 1

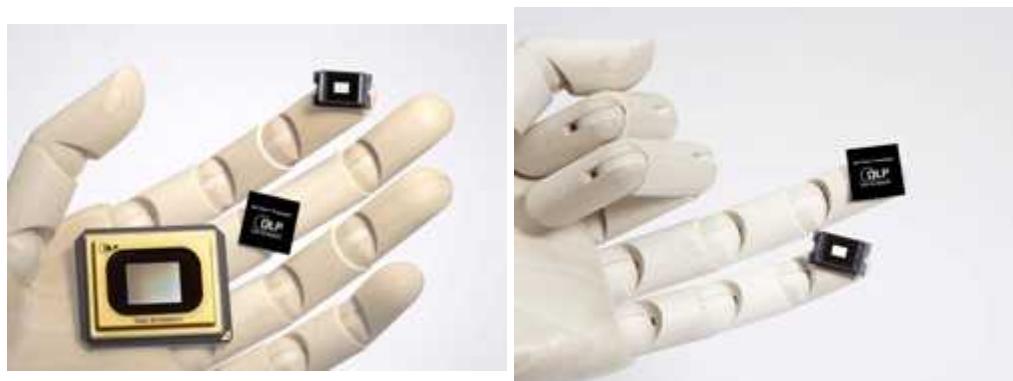
新チップセットの量産を 2008 年中に開始

SCJPR-08-008 2008 年 2 月 13 日

(米国時間 2008 年 2 月 11 日発表 抄訳)

テキサス・インスツルメンツ(本社:米国テキサス州ダラス、社長兼 CEO:リッチ・テンブルトン、略称:TI)は 11 日、スペイン・バルセロナで開催中の携帯電話関連の展示会「Mobile World Congress 2008」において、『DLP Pico™』チップセットの量産予定について発表しました。2008 年下半期の量産出荷開始を予定しています。『DLP Pico』チップセットはイメージング・チップおよびプロセッサから構成され、全く新しいモバイル・プロジェクション機器を実現します。

同チップセットにより、これまでのポータブル機器では動画やグラフィック・コンテンツの視聴は「小型ディスプレイ」上に限られていましたが、『DLP Pico』チップセットの登場により、多人数が「大きな画面」でコンテンツを共有できるという新たな活用法が開かれます。



今年の 1 月に米国ラスベガスで開催された「CES 2008」にて、主要各誌から数々の栄えある賞を獲得した DLP ピコ・プロジェクション製品がもたらした興奮と勢いをそのままに、『DLP Pico』チップセットは、コンシューマのコミュニケーションやエンタテインメント向けポータブル機器への高まり続ける期待に応えています。『DLP Pico』チップセットは非常に小型なため、簡単にモバイル機器内に収まることに加え、DLP フロントプロジェクタおよび DLP Cinema® で積み上げた技術に裏付けられた、類まれな高画質をも提供します。

従来のモバイル機器による限られたマルチメディア・コンテンツの楽しみ方を刷新する『DLP Pico』チップセットは、TI の『OMAP™』アプリケーション・プロセッサと組み合わせての実装も可能です。クラス最高レベルの画像、映像およびグラフィック処理能力を誇る『OMAP』プロセッサと、『DLP Pico』チップセットの優れた映像の投射力によって、ユーザは携帯機器に保存されたコンテンツを「大きな画面」で視聴できるという究極のモバイル体験ができます。

TI の DLP 事業本部、フロント・プロジェクション事業部エマージング・マーケット・ビジネス・マネージャのフランク・モイジオ(Frank J. Moizio)は、以下のように述べています。「この度、DLP Pico チップセットの量産体制が整ったことは、モバイル機器を用いたコンテンツの視聴体験をより良いものにしていくうえで、非常に大きな一歩だと言えます。Foxconn、Sopro、Young Optics などのパートナー各社が弊社のチップセットを用いて開発した製品の映像品質はまさに『一見に如かず』であり、驚くほどすばらしいものです」

プロジェクト市場に特化した調査会社である Pacific Media Associates の創業者であるビル・コッシャル(Bill Coggshall)氏は、以下のように述べています。「TI は、まったく新しい市場におけるリーダとして前進を続けています。弊社では、ポータブル機器にプロジェクトを組み込んだ製品は、2009 年に登場すると見込んでいますが、この市場は、その後 5 年のあいだに大きく拡大すると予想しています。プロジェクト業界にとっても大きなニュースであり、TI がそれを引っ張っているのです」

[『]DLP Pico_』チップセットは、[『]DLP Pico_』チップおよび[『]DLP Pico_』プロセッサ(DDP1500 および DDP1505)から構成されています。DDP1500 プロセッサはポータブル機器向けの組み込み型アプリケーション向けに、また、DDP1505 はポータブル機器の周辺機器市場向けに、それぞれ投入されます。

[『]DLP Pico_』ソリューションは 92% を超える開口率と高い解像度を兼ね備え、20 マイクロ秒以下という高速なスイッチング・スピードと[『]DarkChipTM_』による優れたネイティブ・コントラスト比を実現する画期的なものです。さらに、同チップは最先端の LED(発光ダイオード)を光源として用いた場合、非常に幅広い色域の表現ができます。DLP テクノロジーは、安全、安価かつ信頼性に優れ、信頼性に優れたプロジェクト製品を実現します。

今日までに 1,500 万台以上の DLP チップを出荷している DLP テクノロジーは、大量生産が求められる携帯機器市場においても優れた実績を残しています。業界随一の信頼性を誇る DLP テクノロジーの歴史の積み重ねによって、今回の新チップの発表に至りました。

DLP[®] テクノロジーについて

テキサス・インスツルメンツの DLP[®] 映像テクノロジーは鮮明で明るくシャープな映像を提供します。大画面 HDTV、ビジネスおよびホームシアター向けフロントプロジェクタ、業務用大型プロジェクタ、デジタルシネマ用映写機(DLP Cinema[®])などに採用されています。現在世界 50 社以上の企業が DLP テクノロジーを採用した製品を設計、製造、販売しています。DLP テクノロジーは、世界各地の映画館 6,000 スクリーン以上の興行上映の実績をベースに開発されたフルデジタル映像技術の総称です。すべての DLP チップの中核には、最大 220 万個の極小ミラーが敷き詰められており、これらが超高速スイッチとして機能することで高解像度・高信頼性を誇るフルカラー画像を作り出します。DLP テクノロジーは、そのチップ・アーキテクチャと高速な応答速度という独自の特長によって、スムーズな画像と動きの速い動画の優れた再生機能を実現します。1996 年初頭の量産開始から現在まで DLP サブシステムの累積出荷台数は 1,550 万台を記録しました。

* DLP、DLP ロゴはテキサス・インスツルメンツの登録商標です。

* OMAP、DarkChip はテキサス・インスツルメンツの商標です。

* すべての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。

DLP® ランプフリープロジェクタ、3D DLP® プロジェクタ、DLP® ピコ・プロジェクタを展示

SCJPR-08-052 2008年6月19日(米国時間2008年6月18日抄訳)

テキサス・インスツルメンツ(本社:米国テキサス州ダラス、会長、社長兼CEO:リッチ・テンブルトン、略称:TI)は本日、米国ネバダ州ラスベガスで開催されているプレゼンテーション機器専門の展示会「InfoComm 2008」において、業界初となる PhlatLight™ LED 光源と BrilliantColor™ を搭載したホームシアター向け DLP® ランプフリープロジェクタを公開しました。



LEDを光源に用いた DLP ランプフリープロジェクタは、従来のランプにかかるランニングコストが不要で、DLP® テクノロジーが誇る 1080p の解像度による優れた映像を投影します。オプトマなどのメーカー各社は、2008 年後半にこの LED 光源を搭載した DLP ランプフリープロジェクタを出荷する予定です。この革新的な DLP ランプフリープロジェクタは搭載が進む BrilliantColor と同様、まずホームシアター・プロジェクタ製品に搭載された後、順次ビジネスおよび文教市場向け製品へと拡大される予定です。

InfoComm の DLP ブースでは、モバイル・ビジネス・アプリケーション向けの『DLP Pico™』チップセットを搭載するオプトマの DLP® ピコ・プロジェクタを紹介しています。

DLP ランプフリープロジェクタの特徴

DLP チップ特有の高速動画応答性能と大手 LED メーカーのルミナスが開発した先進の LED 光源を組み合わせた DLP ランプフリープロジェクタは、プロジェクタの新たな製品カテゴリーとして、更に向上した映像品質、信頼性そして製品価値をユーザに提供します。また、DLP チップはミラーに光を反射させ効率的に光をスクリーンへ投影するため、既存の製品と比較して、DLP ランプフリープロジェクタは色再現範囲を最大で 50% 拡大し、200 兆色以上での色再現と 500,000:1 を上回るコントラスト比を実現します。LED 光源と DLP テクノロジーの組み合わせは、映像品質を新たな次元へと高めました。さらに、DLP ランプフリープロジェクタの照明寿命は非常に長く、消費電力を最大で 30% 低減し、従来のランプ交換にかかっていた費用を削減できます。また、DLP ランプフリープロジェクタを含め、DLP プロジェクタの光学系は密閉が可能な設計です。それにより、多くの DLP プロジェクタは光学系への塵や埃の混入を防ぐ防塵フィルタが必要としないため、フィルタの手入れや交換にかかる費用を削減できます。

世界初の DLP ピコ・プロジェクタ製品

オプトマは、『DLP Pico™』チップセットを基に超小型・スタンドアロンの DLP ピコ・プロジェクタを開発すると発表しました。この製品は、2008 年後半にヨーロッパとアジアで販売され、2009 年に全世界で展開されます。DLP ブースでは、この携帯型の DLP ピコ・プロジェクタとモバイルビジネス機器を接続したビデオ映像のデモを行っています。

DLP、DLP ロゴはテキサス・インスツルメンツの登録商標です。

すべての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。